

AtermITX80/ITX70 PIAFS(ピアフ)2.1 版対応について

2000年9月

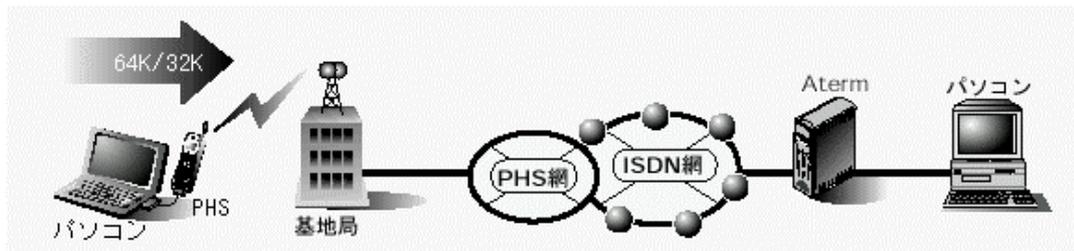
【ソフト名】	AtermITX80/70用	ファームウェア	Ver.1.40以降
【著作権者】	日本電気株式会社		
【対応機種】	AtermITX80/D, AtermITX80, AtermITX70/D		
【対象ユーザ】	上記の対応機種をご使用のお客様		
【転載条件】	転載禁止		

もくじ

1. P I A F S (ピアフ) 2 . 1 版対応

1. PIAFS (ピアフ) 2.1 版対応

Aterm は、PIAFS 2.1 版に対応しました。PHS から INS ネット 64 を介して Aterm に接続し、Aterm に接続したパソコンとのデータ通信を行う際に、相手からの通信速度変更 (64K 32K) に応じることができます。ただし、この場合は自分側の通信速度変更 (64K 32K) は行えません。



【ご参考】PIAFS : PHS Internet Access Forum Standard の略。高品質なデータ通信方式のために標準化された規格です。

Aterm から PHS へ発信する

Aterm から PHS へ発信するには、以下のいずれかの方法を使います。

発信時に通信モードを指定する (PIAFS2.1 版の場合のみ)

接続時、相手先 PHS の電話番号の末尾に「PP」を付けます。ATD コマンドを使う場合も、ダイヤルアップネットワークで接続する場合も同様です。

<ダイヤルアップで接続する場合>

ダイヤルアップネットワークの場合

1. ダイヤルアップ接続のモデムの種類を選択する。

Windows の場合は、同期 64Kbps 用 (AtermIT SYNC115) を選択します。Macintosh の場合は、PIAFS64K 用 (NEC AtermIT 64KPIAFS) を選択します。

2. 電話番号の末尾に PP を付けて発信する。

<ATD コマンドで接続する場合>

1. ハイパーターミナルを起動する。

2. 例に従って ATD コマンドを入力する。

(例) ATD0311112222PP



ATSN コマンドで PIAFS モードに切り替える

1. 発信の前に ATSN コマンドを使い、PIAFS モードに切り替える。

PIAFS 通信モード	AT コマンド
PIAFS2.0 32K モードの場合	ATSN1=2SN15=0
PIAFS2.0 64K モードの場合	ATSN1=2SN15=1
PIAFS2.1 64K/32K モードの場合	ATSN1=2SN15=2

2. ATD コマンドで発信する。(末尾の PF/PD/PP は、不要です)

(例) ATD0311112222

【ご参考】・ Windows98/95 をお使いの場合、ダイヤルアップネットワークのバージョンによっては、「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」のチェックを外す必要があります。
・ PIAFS 通信を行うときは、「発信者番号通知」を行うように設定してください。

PHS から着信する

PIAFS モードでの着信があると、自動的に判別して PIAFS 通信を行います。